

学校における柔道整復師の活動状況の実態調査

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4117058
氏名：角田 佳貴

【目的】

本研究の目的は学校で実施されている運動器検診や部活動などに柔道整復師がどの程度活動しているのかの実態、活動についての考えや課題を明らかにすることである。

【方法】

柔道整復師 422 名を対象にし、年齢、性別、勤務年数、勤務施設・地域、研修・講習会参加経験、学校での活動についての考え、学校での活動経験などについて質問紙調査を実施した。

【結果】

225 名から回答が得られ(回収率 53.3%)、男性 162 名 (72%)、女性 62 名 (27.6%) であり、年齢は平均 28.1 ± 6.7 歳、勤務年数は平均 4.7 年 ± 4.5 年、勤務施設は整骨院/接骨院が 141 名 (62.7%)、整形外科が 83 名 (36.9%) であった。多くの者が学校で活動する事に対して肯定的な意見を持っており、活動を希望する者も多かったが、実際に活動している者は約 30% であった。これは、学校での活動に関して学んだ事がない、活動するきっかけがない事が要因だと推察され、活動を促進する要因として、講習会・研修会への参加が示唆された。

活動している者の多くは部活動で活動をしており、活動内容は外傷への応急処置が多かったが、活動に対する報酬を受け取っていた者は約 50% であった。また、運動器検診での活動経験がある者は 10% 未満であった。課題として、柔道整復師の職業理解の向上、柔道整復師の能力向上、活動に対する規定整備があげられた。

【結論】

学校での活動経験がある柔道整復師は少ないが、活動を希望する柔道整復師は多いことが明らかとなった。